

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103003
法人名	株式会社ユニケア
事業所名	アトラス堀江
所在地	松山市堀江町甲844番地6
自己評価作成日	平成24年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは瀬戸内海を一望できる堀江海岸に面しており、波の音と潮の香りに包まれながら、ゆったりとした時間の中で落ち着いた生活を送ることができます。職員は地域密着型サービスの意義を理解した上で、地域との交流を深めている。地域の行事や奉仕活動に利用者様と参加したり、当ホーム主催の夏祭りに地域住民を招くなど、地域の一員としての生活を大切にしている。月2回の外出ではマイクロバスを使用することもあり、ホーム全員でお出かけすることができます。また、協力医療機関である三好整形外科の支援、指導のもと、グループホームでありながら専門機器を設備し、効果的なりハビリを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所は、「一軒の家として、地域の人達とお付き合いしたい」という気持ちを持って、地域活動等に積極的に参加されている。事業所前の海岸掃除は、2週間に1回、朝7時から行われており、4～5名の近所の方が出て来られる。事業所からも職員が参加されて、地域の方達とのふれあう場にもなっている。事業所に地域の敬老会の案内が届き、利用者3名が出席して、地域の高齢者の方達と一緒に祝いをしていただいた。事業所で夏祭りを行った際には、町内会の世話役の方と相談して、回覧板で案内を回してもらい、又、スーパーや商店にもポスターを貼らせていただいた。当日は、町内放送でも流してもらって、50名ほどの方の参加があり、利用者も一緒にお祭りの雰囲気を楽しまれた。事業所のクリスマス会や敬老会時には、地域の保育園の園児の訪問があり、利用者とプレゼント交換したり握手する等、ふれあう場面を作っておられ、利用者の中には涙を流して喜ばれる方もおられるようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

(ユニット名)

アトラス堀江

記入者(管理者)

氏名

黒瀬 尚亮

評価完了日

平成24年 12月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員が地域密着型と運営理念の意義を理解しており、定期ミーティングや朝の申し送り時に話し合いをして、仕事に取り組んでいる。理念は目のつく所に提示し、常に介護を振り返りながら実践に繋げている。	
			(外部評価) 事業所では、「家族と地域と共に穏やかな生活を笑顔で過ごす」という理念をつくり、玄関、食堂、事務所に掲示されており、毎月のミーティング時や朝の申し送り時に、職員で唱和して意識統一を図っておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域主催の敬老会や運動会等、地域行事には積極的に参加をし、事業所が中心となって開催している夏祭りには、年々地域住民の参加者やボランティアが増えてきている。また、事業所で飼っている犬の散歩時に出会う方と挨拶を交わしたり、施設設備の補修を好意で手伝ってくれたり、日常的な付き合いへと発展している。	
			(外部評価) 事業所は、「一軒の家として、地域の人達とお付き合いしたい」という気持ちを持って、地域活動等に積極的に参加されている。事業所の前の海岸掃除は、2週間に1回、朝7時から行われており、4～5名の近所の方が出来られる。事業所からも職員が参加されて、地域の方達とのふれあう場にもなっている。事業所に地域の敬老会の案内が届き、利用者3名が出席して、地域の高齢者の方達と一緒に祝いをしていただいた。事業所で夏祭りを行った際には、町内会の世話役の方と相談して、回覧板で案内を回してもらい、又、スーパーや商店にもポスターを貼らせていただいた。当日は、町内放送でも流してもらって、50名ほどの方の参加があり、利用者も一緒にお祭りの雰囲気を楽しまれた。事業所のクリスマス会や敬老会時には、地域の保育園の園児の訪問があり、利用者とプレゼント交換したり握手する等、ふれあう場面を作っておられ、利用者の中には涙を流して喜ばれる方もおられるようだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 職員の受けた研修内容を運営推進会議等で地域の方に伝達したり、事例を踏まえて認知症高齢者の行動や支援方法を紹介している。夏祭りなどの行事では実際に利用者様と接する機会もあり、より理解を深めることができています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 現在、運営推進会議は2ヶ月に一回開催することができており、評価や意見をいただきながらサービスの向上に活かしている。東日本大震災後、津波を想定した災害訓練が課題となっていたが、地域の方の意見、協力をもとに対策が進んでいる。	管理者は今後、「地域にお付き合いを拡げ、会議参加につなげたい」と話しておられた。会議を通じて、事業所の取り組みをより多くの方に知ってもらい、理念の実践に向けてさらに協力者を増やしていかれてほしい。又、ご家族は、利用者とともに支えるケアパートナーでもあり、会議にも参加いただけるよう、会議のかたちを工夫しながら働きかけていかれてほしい。
			(外部評価) 交流のある保育園の先生や駐在所の警察官の方、他グループホームの職員や地区社協の独居高齢者見守り隊の方等が会議に参加されている。職員ミーティング時に、会議のテーマを決めておられ、消防署の方や歯科医を講師に招き、職員もほぼ全員が参加して、メンバーとともに勉強をされている。ご家族には、来訪時に会議日程を伝えて案内されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 解らないことや困ったことがあれば、都度市の担当者に相談をしている。また、自施設、他施設の運営推進会議の際にはサービスについて話をしたり、意見を聞きながら協力関係を築いている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、管理者は、会議のあり方について、「自由な型でもよいか」と質問され、市の担当者の方から大丈夫であることを教えてもらった。管理者は、事業所や利用者のことを知ってもらえるような、「型に捉われない会議を工夫していきたい」と考えておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、窓の施錠はしておらず、誰でも自由に出入りできるようにしている。職員は「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解しており、それ以外であっても、利用者様が不自由であろうと感じる行為については職員間でよく話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員は、内・外部研修で、身体拘束について勉強されており、「言葉・身体・薬」支援時には、拘束になっていないか考えながら取り組まれている。気ままに出かけていく利用者には、職員は、利用者の行動を見守りながら、利用者の思っていることを否定することがないように対応されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について定期的に勉強会を開き、高齢者虐待防止法や、実例等について学んでいる。職員は日々の生活の中でも利用者様の精神面、身体状況を観察しており、虐待が見過ごされることがないように努めている。また、虐待理由の一つである職員のストレスにも目を向け、会社全体で心のケアを行う取り組みをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護、成年後見人制度等、ミーティングを利用して学ぶ機会を設けている。実際に後見人制度を利用されている利用者様もあり、今後も必要な方がいれば活用できる支援体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には理解、納得を得られるように解りやすく、十分な説明を行うとともに、どんな些細な疑問や不安に対しても質問ができるよう配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族とは気軽に声を掛けあえられる関係作りに努めており、面会時にお話した内容は家族対応帳を活用して、職員全員が家族の要望を共有できるようにしている。ホーム入口には意見箱も設置し、些細な意見も反映できるよう取り組んでいる。 (外部評価) 毎月、事業所便りを発行して日々の利用者の様子をご家族に報告されており、又、今後の行事予定も知らせておられる。ご家族の来訪時、職員は、ゆっくり話す時間を作り、ご家族からの質問や意見を聞き取っておられる。事業所主催の夏祭り時には、ご家族がテント張りや片づけ等を手伝ってくださった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>より良い運営、サービスを行うために職員同士が自由に意見を言い合える環境作りや機会を設けている。現在では会議以外でも意見や提案が多く上がったり、運営推進会議の議題について「こんな議題で話をしたい」といった声ができることもある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月のミーティング時には、ケアや業務について職員で意見を出し合い、みなで決めながら取り組まれている。職員の休憩の取り方等についても、利用者の暮らしも踏まえつつ、職員で意見を出し合い決められた。職員はそれぞれに、「行事・食事・施設内の整理・備品の発注」等の担当になり、責任を持って取り組む仕組みを作っておられる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>職員の努力、実績、勤務年数等が給与水準に反映され、各自が向上心を持って仕事をできるような仕組みになっている。また、職員個々の生活にも配慮がされており、勤務場所や勤務時間、勤務部署等の職場環境、条件整備にも努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の経験や技量に合わせて、法人内外への研修参加を勧めるほか、職員本人の希望する研修へも参加できるよう調整している。職員会議では研修に参加できなかった職員のため、伝達講習の時間も設けている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>地域包括支援センターの連絡会や運営推進会議を通じてネットワークが広がっている。行事の際には相互訪問する機会も増え、利用者様から喜びの声も上がっている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事前面談での状況把握に努めており、本人の想いや求めていることに応えられるよう努力している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に話をよく聞き、不安や要望を把握しながら、こちらからも解決していくための提案をして関係を築いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス開始時にまず何が必要であるか、優先順位を見極めた支援を行いながら、その他のサービスも複合的に柔軟な対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は介護者であると利用者様に感じさせないような対応に努めており、日々の生活のなかでも同じ目線、立場に立った接し方を心掛けている。お互いに助け合い、必要性を感じられる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との情報交換や相談する時間をできるだけ多く持ち、職員にできる支援、家族にできる支援とを明確にしながら共有して、一緒に本人を支えていける関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 昔馴染みの友人がホームを訪れたり、手紙や電話を利用して関係の継続を大切にしている。外出時には昔行っていた喫茶店や、親族が経営するお店等にもよく出掛けている。 (外部評価) ご家族と病院受診に出かけて、外食して帰る利用者もいる。編み物や習字等、得意なことを続けられるよう、材料を一緒に買いに行く等しながら支援されている。事業所の近所に住む友人が時々訪ねて来てくださり、利用者とお話できるよう、職員は、居室に案内されたり、お茶をお出しして、気配りをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は利用者同士の関係を把握し、歌が好きな人や相撲が好きな人など、お互いに共通する趣味を見つけて楽しく過ごせる場を設ける工夫をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後でも、現在の状況を把握するために訪問や電話をしたり、必要に応じていつでも相談を受けられるようフォローしている。最近では契約が終了した家族でも、馴染みとなった利用者様に会いに訪れることが多くみられた。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向をしっかりと受け止め、それに沿った生活を送れるよう支援している。自分から希望を伝えることが困難な方もおられるが、そういった方に対しても家族の情報やアセスメント、これまでの言動、表情などから本人本位に検討をして支援を行っている。 (外部評価) 職員は、日々のケアの中で利用者の思いや意向の把握に努めておられる。管理者は、以前に取り組んでいた「気付きノート」を再開したいと考えておられる。利用者から得た情報をもとにして、今後もさらに、利用者主体の暮らしを支えていかれてほしい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントやセンター方式、家族からの情報収集を行ってこれまでの暮らしを把握している。その他、ホームでの生活の中でも利用者様との会話や観察を行うことで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録や申し送りを十分に活用し、全職員が一人ひとりの生活、状態を把握できるよう努めている。また、職員が全ての利用者様と直接関わられるように、勤務時の役割にも工夫を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画の作成前には本人、家族からの意見や要望を聞いている。モニタリング後、職員会議にてカンファレンスを開き、それぞれの意見やアイデアをもとに介護計画を作成している。	
			(外部評価) 介護計画は、毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとの見直しにつなげておられる。「怒りっぽくなった」利用者の原因を探るために、ご本人の生活について改めてアセスメントが行われた。そこで、「皮膚をよく搔く」ことに職員が気付かれ、医療機関のアドバイスをを受けたり、職員でケアについて話し合い、介護計画を見直した事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録には生活の出来事や会話などを細かく記入し、職員会議では介護計画作成にも活用できている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に変化があった場合、その時々に応じて何が必要であるか、何を行うべきかを職員間で話し合いながらサービスを行うよう努力している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) これまでに利用してきた地域資源を含め、新たな地域資源を増やししながら、より豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携を図り、定期健診や必要に応じて受診を行っている。希望のかかりつけ医や専門医がある場合には、そちらへ受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の誕生日月と年に数回、母体医療機関で定期健康診断を受けるよう支援されている。協力医療機関の受診には、ご家族が付き添っておられるが、ご家族のご都合によっては職員が同行することもある。事業所の看護師資格を有する職員が利用者の健康管理を行い、必要に応じて協力医療機関等と連絡を取り合い支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護職員が日常的な健康管理を行っているが、変化や異常に気づいた際にはすぐに協力医療機関と連携し、看護師、または医師へ報告、適切な受診や看護を受けられる体制をとっている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者様が入院した際には、度々病院へ出向いて情報交換を行い、早期退院へ向けた連携をとっている。また、利用者様にも安心して治療に専念してもらえるよう、病院での孤独感など感じないような支援を行っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取り指針を作成しており、入所時の早い段階からホームでの看取り方針について説明をしている。、実際に重度化した場合には、状況の変化に応じて医師を交えた話し合いも行っている。全職員は看取りケアについての研修を受けており、終末期に向けた方針の共有に努めている。	
			(外部評価) 利用者、ご家族の希望に沿って、昨年7月に利用者1名の看取りを支援した事例がある。ご家族は、毎日足を運ばれて、お好きな食べ物を用意されたり、食事介助する等されて、一緒に看取られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアル、及び急変時・事故発生時に備えての研修を定期的に行っている。実際の急変時対応経験者もあり、十分に実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) これまでには火災や地震対策を中心に行っていたが、東日本大震災後、津波を含めあらゆる災害を想定した防災訓練を行っている。地域でも災害時の協力体制見直しが強化されており、積極的に参加をしている。	災害時、いざという時に地域の方達と協力し合えるように、避難訓練を一緒に行う等しながら、協力体制を作っていかれてはどうだろうか。又、運営推進会議等を活かして話し合ってみてはどうだろうか。
			(外部評価) 年2回、火災想定・津波想定で避難訓練を行っておられる。事業所は海に近く、津波が発生した場合、職員が利用者をおぶって2階に避難することになっているが、利用者の状態によっては避難させることに難しさも感じておられる。事業所では災害はいつ起こるか分からないことを踏まえて、今後、抜き打ちで避難訓練を行ってみることも考えておられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は個人的な考えや思い込みにとらわれず、利用者様一人ひとりの人格、思想を受け入れる姿勢で接している。言葉かけや対応にも十分注意し、プライバシーを傷つけないよう配慮している。	
			(外部評価) 書類を並べる棚にはカーテンを付け、外部から中が見えないようにされている。職員は、利用者の隣りや前では記録を付けない等、気を付け個人情報の保護に努めておられる。管理者は、「ご本人の言葉を否定しないこと」「ご本人の意見を尊重すること」等を、日々の中で職員に話しておられ、職員は、「利用者と視線を合わせ会話することや、やわらかい表情や笑顔で接すること」を大切に、日々利用者へ接しておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中にゆったりとした時間を作り、利用者様が自分のペースで物事を決定していける環境づくりを行っている。希望の表出が難しい方でも、複数の選択から選べるような工夫をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活リズム、ペースに合わせた支援を行っている。共同生活のためホームでの決まり事もあるが、常に利用者様の希望を優先するよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室に行かれたり、お店で好きな洋服を購入したりと、その人に合わせた支援を行っている。自己表現が困難な方についても、昔の写真や何気ない行動の中から情報を得て、その人らしい身だしなみ、おしゃれをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 基本となる食事メニューは、食事担当者会議にて利用者の好みや季節の食材を取り入れて作られている。また、畑で作った野菜と一緒に収穫して食材に使うなどの楽しみも取り入れている。それぞれができることを準備から片付けまで、一緒に行っている。	
			(外部評価) 法人内の3事業所が集まり、「食事担当者会議」を行っておられ、1ヶ月ごとに、献立を作っておられる。利用者は、職員と一緒に食材の買い出しに行かれたり、野菜の下ごしらえや配膳等を行っておられる。テーブルには、利用者のネームを貼っておられ、個々に決まった席で食事をされている。この評価の機会を活かして、利用者一人ひとりについて「食事を楽しむ」という観点から支援に工夫できることはないか、話し合ってみてはどうだろうか。時には、ご家族の意見等もお聞きしながら、食事が楽しみになるような支援を工夫していかれてほしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養面は担当者会議にてよく話し合い、バランスのとれた食事メニューとなっている。職員は一人ひとりの食事摂取量を把握しており、毎回記録へも残しながら状態に合わせた支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食後実施できている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人に合わせた時間帯でのトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 尿失禁のみられる利用者が多いこともあって、事業所では、毎朝、失禁体操を行えるよう支援されている。日中は、トイレで排泄できるよう、声かけや誘導にて支援しておられ、排泄ケア用品の費用の軽減にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、飲食物には食物繊維、酵素の多いものを取り入れたり、リハビリや散歩を通じて腸を活発化させたりと工夫しながら予防に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日お風呂を沸かし、衛生面を考慮しながら2日に一度は入浴ができるように支援している。また、本人の希望によっていつでも入れるよう対応したり、入浴剤を入れてお風呂を楽しめるよう工夫している。	
			(外部評価) 入浴をあまり好まない利用者の方が多く、職員は、利用者のお好きな話題でおしゃべりして、利用者の気分をみながら入浴にお誘いしたり、浴室で音楽を流して一緒に歌いながら入浴する等、支援に工夫を重ね、2日に1回、入浴できるよう支援されている。事業所では、午前中が入浴時間となっている。利用者一人ひとりが気持ちよく入浴できるような支援に向けて、利用者の以前の入浴の習慣を探ったり、入浴の好み等、ご本人やご家族から探り、支援に採り入れてみてはどうか。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活パターン、状況や希望に応じて休息を取り入れている。日中は軽い運動や日向ぼっこをして、夜間に気持ちよく眠れるような支援も行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用している薬の効果、副作用などを一覧表にて誰もがわかるようにしている。自分で服用が難しい方には介助、確認も行い、常に状態に変化がないか観察している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) これまでの生活歴から、趣味や日課など、楽しみにされていたことは継続して行えるよう支援している。また、ホームでの生活の中で、新しい楽しみや役割を発見できるよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に1~2回、バスを使用してみんなで外出する機会を作っている。その他、希望者のみで喫茶店や買い物へ行ったり、他施設へ訪問して交流を深めたりもしている。ご家族の協力を得て、一緒に買い物へ行くなどの支援も行っている。	
			(外部評価) 犬の散歩の際には、利用者も一緒に行かれる。外出は、月2回計画されており、1回は利用者全員で出かけ、もう1回は、希望者で出かけられるよう支援されている。利用者からお菓子や化粧品等の買い物、お墓参りの希望があれば、個別に出かけられるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望される方には自分でお金を所持していただき、買い物の際には適切に商品を購入できるよう見守り、支援を行っている。その他、お金の管理が難しい方にも、施設で開催するバザーや夏祭りなどで支払いができるような支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙など、希望があれば自由にさせていただいている。電話の際には静かな場所へお連れしたり、手紙の際には切手購入や投函などがスムーズに行えるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地がよく落ち着いた生活が送れるように、ホーム内では一般家庭のような生活感を大切にしている。調理の音や匂い、窓から見える海の景色、飾りなども見慣れた物を置き、色や雰囲気など利用者様が心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 玄関には、ベンチを設置し、プランターには葉ボタンやビオラの花を植えておられた。事業所内の各所に座る場所を作っておられ、廊下に掲示している写真の前やテレビの近く等にはソファ等を配し、利用者それぞれにお気に入りの場所もある。居間には、1ヶ月の行事予定表を大きく掲示しておられ、職員は、時々話題に出して利用者が楽しみにできるよう支援されている。居間は、加湿器で湿度調整しておられ、日中は、窓から自然の光を採り入れて過ごされていた。週一回、母体医療機関の作業療法士の指導のもと利用者は、リハビリ室の器具等を使用しながら機能訓練を行っておられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホーム内の廊下には所々数箇所にソファが設置しており、一人で日向ぼっこをしたり、仲の良い者同士でお話したりできるような居場所作りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 布団、タンス、ベッド等は施設側で準備することもできるが、本人の使い慣れた家具や馴染みのある品がある方には自由に持ち込みをしていただき、心地よく安心した生活が送れるよう工夫している。	
			(外部評価) ドアにはいろいろな動物の形のネームプレートをつけて、目印にされている。各居室に温・計湿度計をかけておられ、カレンダーを付けておられる。起床すると布団をたたむ利用者がおられ、ご本人が居室を離れる時には、職員が換気をして、気持ちよく過ごせるよう支援されている。お孫さんの写真や習字の作品、趣味のアートフラワー等を置いている居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差の解消や手すりの設置は必要最小限とし、一人ひとりのできることを妨げない環境作りを工夫している。自立生活へ向けた支援を心掛け、職員が全てを行うのではなく、必要な援助をさりげなく行うことに努めている。	